

## 吾妻川巡検

鈴木香織

今回の吾妻川巡検は自然地理学実験Ⅰの一環であり、榛名火山の二ツ岳降下軽石層（FP：6世紀）を鍵層として河岸段丘地形を調査し、それを通じて地形調査手法を学ぶことが目的である。

5月12日：予備調査として沼尾川に入り、FPの分布を確認した。その後、教室では航空写真判読によって、地形分類図を作成した。段丘面は上からⅠ～Ⅳ面に大別した。また幾つかの文献を読んで下調べを行った。

7月20日：鍋沢で調査を開始した。現地へ着き教室での下調べが功を奏したとまず実感したのは、地形判読をしておいたため、初めて訪れたはずの現地の地形を意外と把握できたことである。堆積物から、このⅠ、Ⅱ面は扇状地面であり、Ⅲ面はそれを急勾配で切る土石流扇状地面であることを確認した。扇状地堆積物の礫層のなかには火山灰質のmatrixも認められた。千沢川の出口付近では、Ⅰ面構成層のかなり下部まで観察できる露頭を発見した。その最下部は赤茶色の締まった礫層であり、榛名山形成の際のかなり古い堆積物を含むかもしれないと考えた。Ⅰ面上には、黄土色で粘土化した火山灰層がみえた。これはFPよりもかなり古いものである。この段丘面上には、分布軸を外れるため、FPは発見できなかった。実際に歩いてみると、段丘崖が急で上れなかったり、崖錘堆積物で露頭が覆われていることなどの難しさもよく分かった。

21日：前日より下流側の登沢川の出口付近を調査した。まず段丘面Ⅰを上りきると、さっそく土壌直下にFP降下軽石層を見つけた。ここでサンプルと写真をとった。今回初めてのFP発見で、サンプルを袋に入れたりしながら内心ワクワクして

いたのは私だけではないはず……。段丘面をⅡ面まで降りた。予想ではこの段丘面上にもFPはあるはずだが、耕地化のため土壌直下を観察できなかった。側の段丘崖へ回りこむことにした。ここは女子大生がよじ登るには少しばかり急だった。今回は苦勞のかいあって、かなりよい状態のFPを観察できた。ここでは火砕流ないし軽石流として堆積しており、その上を炭化植物層が薄く覆い（噴火時の山火事によるものか）、その上に真っ白で比較的厚い降下堆積物と考えられる層があった。しばらく観察とサンプリングをした後、吾妻川へと降りて対岸からも段丘崖を観察した。段丘堆積物は20m以上もの厚い礫層で、登沢川の出口付近にのみ、谷を流下してきたFP火砕流が覆っていることが確認できた。

わずか数日間だったが、室内作業をもとに、日々の調査計画を立てながら現地を歩き回るといふ調査方法が、体で分かったと思う。ただ巡検後は学期が終わったため、まとめが本稿以外にはできなかったのが反省点である。今回の巡検を卒業論文作成の際に生かしたいと思う。

（5月12日，7月20～21日 杉谷教官指導）

〔位置の概略〕

